

### 第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

新居浜市立〇〇中学校

指導主幹 越智誠司

#### 1 単元名 『いつまでも住み続けられる、わがまち「新居浜」～C・Sを中心として～』パート1

#### 2 単元の目標

- コミュニティ・スクール（C・S）の目的・目標は何か、どのように地域と学校が関係していくのか、自分自身はどのように参加していけるのか、を理解し、学校内外に発信できるように分かりやすくまとめることができる。 (知識及び技能)
- C・Sが始まったきっかけや、これからどのような役割を担っていく可能性があるのか、少子高齢化や家族の多様化、新居浜市の産業等の変化を調べ、今後を予測し、パワポや冊子を作成する等して発信することができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 「魅力的な街、住み続けたい街、移住したい街となっていくために、C・Sとのかかわりの中で、今後、自分たちにはどのようなことができるのか」という目的意識を持ち、持続可能な新居浜市の将来を担っていくという意識や意欲のもと、具体的なプランを考え、すぐに可能なことは実行し、今後実行していきたいこと、次世代につないでいきたいことは、企画書としてまとめることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

#### 3 単元について

##### (1) 教材観

本単元は、「社会科の公民分野『少子高齢化』『家族の多様化』を新居浜市に置き換えると?」、「新居浜市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する基本計画(案)」、「自治体加入率(新居浜市と他市との比較から考える)」、「新居浜太鼓祭りの今後」を教材として取り上げたい。

公民分野で学ぶことは、保健体育科や技術・家庭科はもちろん、ほとんどの教科に関連することである。同じく、新居浜市の小・中学校の適正規模を考えることや、自治体加入率、新居浜祭りの今後を考えていくことも、全て何らかの形で他教科につながってくる。この単元での学びを通して、総合的な学習の時間がまさに教科横断的な学びとして、学校内から学校外へ、新居浜市から日本へと、視野を広げるとともに、実際に校外に出て、人とのかかわり、話を聞くなど、五感で捉え、「主体的・対話的で、深い学び」へと発展していけるものと考えている。

##### (2) 生徒観

現在、教育委員会4年目であるため省略。ただし、この欄を書くとするならば、インクルーシブとダイバーシティの視点を必ず入れたい。

##### (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、新居浜市の小・中学校が全てC・Sであることを確認し、そのC・Sとは何か、自分たちはどのようにかかわっていけるのか、それらについて理解するとともに、これまでの実績や課題、今後の展望について、現時点での実態をとらえさせ、この単元

を学んでいくことへの動機付けとしたい。

次に、なぜC・Sが必要なのか、この取組を充実させていくことで具体的にどのようなプラスの作用が働くのか、それらについて、ネットや文献をもとに調べ、その上で実際に活動している地域の人や担当の先生、先進校の生徒への聞き取りをする。生きた情報・身近な実践等に触れることで、自分たちにも関係がある、自分たちでも貢献できる、自分たちでも社会をより良い方向へと導く手伝いができる、そんな自分事として捉えられるようにする。

そして、今度は自分たちの地域を抜け出し、新居浜市の30年後はどうなっているのか、自治体加入率や太鼓祭りのかき夫の人数の推移、小・中学校の適正規模の問題など、できる限り現実味を帯びた数値に触れ、決して他人事ではなく、将来、確実に直面するであろう課題に対応するための準備を考え、それらが実行可能かを検証していく。

さらには、これらの活動を通して、自分たちでも社会に貢献できるという実感、社会をより良い方向へ変えていけるという自信を持つとともに、活動を振り返り、もっと他にも良いやり方があったのではないかと、違う視点があったのではないかと等、より深い学びと実践へとつなげていきたい。

#### (4) ESDとの関連

##### ・ 本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性…現在の地域の実態は、過去の地域の取組（人々の生き方）の結果である。つまり、現在の地域の取組（人々の生き方）が未来を決定するということ。

公平性…世代内での諸課題の解消・解決に取り組むのはもちろん大切であるが、世代間倫理を念頭に置いていないと持続可能な新居浜にはならないということ。

連携性…老いも若きも、新居浜出身者や昔から住んでいる人々も、仕事で引っ越してきたり移住してきた人々も、誰もが新居浜の未来の担い手であること。

##### ・ 本学習を通して育てたいESDの資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

将来人口推計や児童・生徒数・学級数の推移を基に、これからの諸課題を予測し、いかに対応していくか、できるできないにかかわらず、こだわらず、まずは考え、計画する。

他者と協力する態度

自分たちが考えた計画は有効なのか、どのようにしたら実現が可能か、学校を離れ、専門家やあらゆる世代の人々とつながり、顔見知りになり、協働へ発展させる。

コミュニケーションを行う力

様々な世代や考え方を持つ人、専門家と接し、自分の考えや意見を伝え、質問したり意見を出したりするなどのプロセスを通して、より良いコミュニケーションの仕方を学ぶ。

進んで参加する態度

自分たちで考え、計画したことが、実際に新居浜の未来を変え得ることができると実感でき、理想的な社会づくりに積極的にかかわろうとする態度を身に付ける。

##### ・ 本学習で変容を促すESDの価値観

世代内の公正

人口の多い世代（高齢者）に合わせた環境整備を推し進めるだけでなく、次世代（少子側

である若年者) が心身ともに健全に育っていける環境をもう一度考え、再構築していく。  
世代間の公正

善かれ悪しかれ、現在生きている人々は未来を創っていく能動的な立場である。しかし、  
未来の人たちは生誕時に生きる環境が決まっている。今、これからは、未来を決める。  
幸福感に敏感になる、幸福感を重視する。

同時代に生きる異世代間の幸せ観の違い、同世代間の幸せ観の違い、現在と未来の幸せ観  
の違いなど、様々な視点から幸せとは何かを考える癖を付ける。

・達成が期待されるSDGs

8 働きがいも経済成長も

すべての人のための持続的、包括的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用および  
ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する

11 住み続けられるまちづくりを

都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする

(5) 次年度以降につなげること

今年度はこの取組のスタートである。生徒たちが考え、代表生徒が発信するところまでである。  
来年度以降、多くの生徒が自分事して捉え、地域の人々とともに実際に動く、変化を感じる、  
そして、次にやることを見付ける、そういうサイクルを回していける取組にする。

4 単元の評価規準

観点	ア 知識及び技能	イ 思考力・判断力・表現力等	ウ 主体的に学習に取り組む態度
評価基準	① C・Sの目的・目標及び仕組みについて理解している。 ② 調査や取材の方法(情報収集先の選別や内容・マナー等)が適切である。 ③ 学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図、絵等を用いてそれらを関連付けながらまとめ、発信する技能を身に付けている。	① 資料や調査を基に将来を予測し、課題を見出す中で、持続可能な街づくりのための方策を考えている。 ② 自分たちで考えた方策が効果的であるか否かを専門家等に確認し、助言を受けながら軌道修正している。 ③ 他学年や地域に向けて、世代内及び世代間倫理について発信するための資料をまとめ、発信している。	① C・Sの目的・目標を意識し、地域の人たちや専門家等と意欲的にかかわっている。 ② 持続可能な街づくりのための方策について、前向きに自分事として考え、意見を持ち、発信している。 ③ 今回の学習が終わっても、生涯にわたってこの課題に取り組んでいこうとしている。

5 単元の指導計画（全18時間）

学習活動	学習への支援	評価・備考
<p>1 コミュニティ・スクールとは何か、どんなことをしているのか、自校や他地域の取組を基に理解を深めるとともに、今後の活動の見通しを持つ。</p> <p>◎ C・Sって、言葉はよく聞くけど、そういうことをしているんだ！</p> <p>◎ え？ 遠足もC・Sだったんだね</p> <p>◎ そんな人たちが関係していたんだね。自分たちにもできることはあるのかな？</p> <p>◎ でも、なぜC・Sが必要なの？</p>	<p>○ C・Sカレンダー等を用いて、小・中学校行事の中に、実はC・Sの取組であったことなどに気付かせる。</p> <p>○ C・S活動について、これまでにどんなことをしてきたのか、どんな人がかかわっているのか、これからはどうなっていく予定なのか、自校や市内先進校の取組（プレゼン等）を用いて分かりやすく説明する。</p> <p>○ 自分たちが参加することは地域（の人々）のためになる、喜んでくれることを実感させる。</p>	<p>ア① (知・技)</p>
<p>2 なぜC・Sが必要なのか、今後30年の新居浜を予想し、考えていく。</p> <p>・社会科の公民分野『少子高齢化』『家族の多様化』を新居浜市に置き換えて考えてみよう。</p> <p>・新居浜市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する基本計画(案)を知っていますか？</p> <p>・自治体加入率の推移について、新居浜市と他市と比較してみよう。</p> <p>・新居浜太鼓祭りはこれからどうなっていく？</p>	<p>※ 調査活動はネット・文献・訪問（場合によっては電話）インタビュー等を実施する。</p> <p>○ 新居浜市について書かれた副教材（小学校用）や新居浜ものしり検定などを用意するなど、イメージしやすい環境を設定する。</p> <p>○ 学校が統廃合する可能性について、家族や地域の人々の意見を聞くことで、さらに真剣に自分事とさせたい。</p> <p>○ 地域おこし（地域の結びつき強化）のための取組にはどのようなものが、C・Sとの関連や可能性を考えさせる。</p> <p>○ 新居浜の代名詞ともいえる太鼓祭りの存続ができる＝持続可能な新居浜である、とも言えることを理解させたい。</p>	<p>ア② (知・技)</p> <p>イ①② (思判表)</p> <p>ウ① (主体的)</p>
<p>3 新居浜市が持続可能なまちとなっていくために、自分たちにできることを考え、発信する。</p> <p>・参観授業でクラス発表</p> <p>・文化祭で地域に向けて発表（選抜）</p> <p>・小冊子にまとめて地域及び関係機関へ発信</p>	<p>○ 今すぐできること、これからできると予想されること、できるかどうか分からないけど挑戦してみたいこと、の三段階で発信する。今すぐできることは、実際にやってみての感想等を入れさせる。挑戦してみたいことについては、常識にとらわれず、自由な発想を大事にさせたい。</p>	<p>ア③ (知・技)</p> <p>イ③ (思判表)</p> <p>ウ② (主体的)</p>
<p>4 活動の振り返りをする。</p>	<p>○ きれいごとではなく、本音が出るように。それが互いのこれからにつながっていく。</p>	<p>ウ③ (主体的)</p>